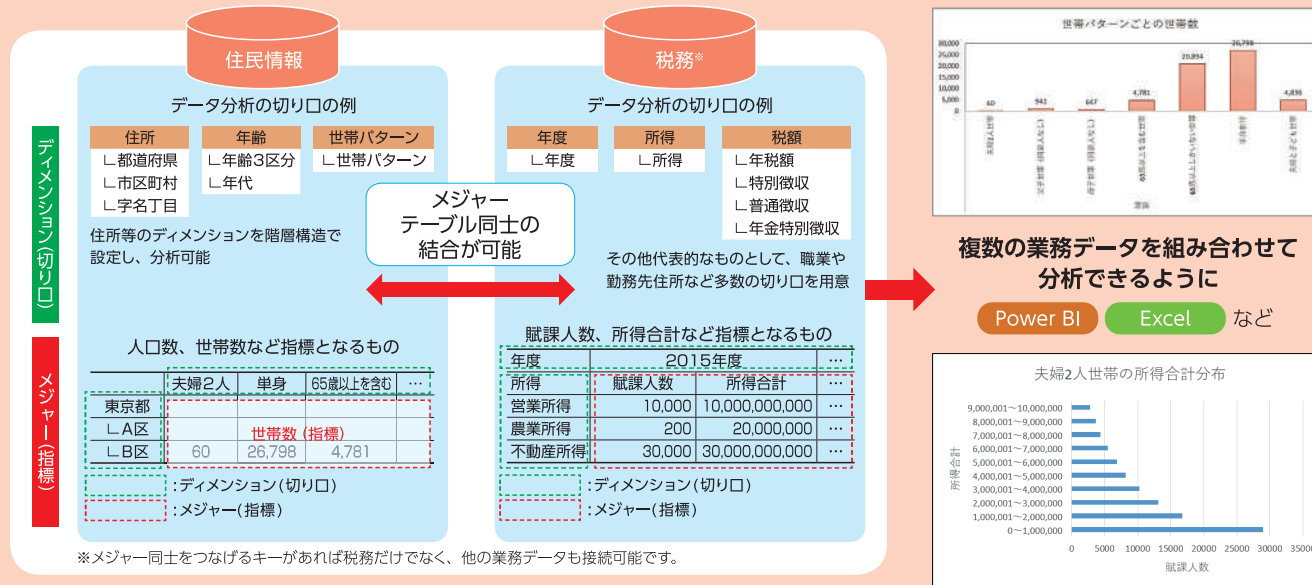


自由な分析ができる仕組みとは

行政情報分析基盤 for セルフBIでは、「ディメンションテーブル」と「メジャーテーブル」を結合し、データをモデル化して分析を可能にします。
各テーブルを設定し、自治体で保有するデータを自由な視点で分析することができます。



導入事例／ユースケース

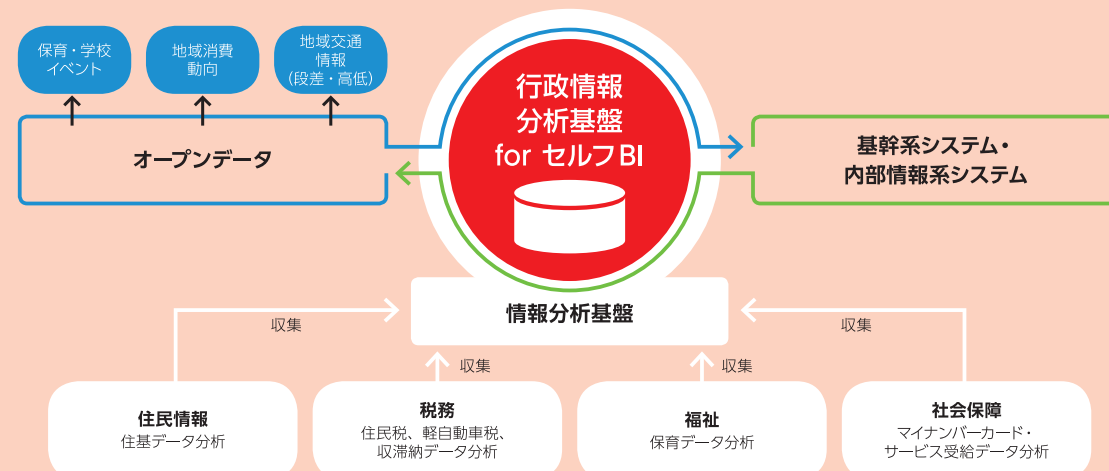
ある自治体では保有する有益なデータをすべての職員に共有して業務効率化と組織を超えた情報連携の実現を目指し、「行政情報分析基盤 for セルフBI」を導入。財政データや統計データなどの分析結果をグラフィカルに可視化する仕組みにより、職員1人ひとりがデータを業務に活用できるようになったとともに、新たな気づきを得る機会を創出しました。

導入の狙い

- 組織ごとに閉じていたデータを統合・分析し時代に即応できる高度な行政を実現したい
- 必要なデータを即座に参照・活用できるようにして業務を効率化・迅速化したい

導入によるメリット

- 多様なデータの活用と公開を行い透明性の高い行政運営を実現する基盤を構築
- 部門を越えた高度なデータ集計・分析をより効率的に実行できる



デジタル時代の自治体づくりに向けた
新しいデータ分析プラットフォーム

行政情報分析基盤 for セルフBI



自治体内に大量に散在する データの分析をより自由に、より手軽に

自治体において行政サービス向上の1つのカギとなるのが、大量に保有するデータの分析です。
しかし「BIツールを導入しているがうまく活用できていない」
という課題をもつ自治体も少なくありません。
そうした悩みを解決するのが「行政情報分析基盤 for セルフBI」です。

課題1 根拠に欠ける政策立案

- 経験や勘、縦割り行政で情報が分断され、データ活用が困難
- 政策立案や意思決定の大半が経験や勘に依存

課題2 取り巻く環境の変化

- 人口減による歳入の減少
- 固定費の捻出
- 多様化する住民ニーズ

課題3 複雑なデータ収集・整備

- BIツールを導入したが、使いこなせていない
- データ収集に時間がかかる
- 自由な切り口で可視化や分析ができない

行政情報分析基盤 for セルフBIで 解決！

自治体内やクラウドで保有する各種システムからの多種多様なデータを1つのプラットフォーム上に統合。これまで横串での連携が難しかったデータを一元化し、BIツールでの分析を容易に行えるソリューションです。

メリット1 政策分析 精度の向上

データに基づいた正確な現状把握や課題分析ができます。

メリット2 住民サービスの 品質向上

正確な住民情報を多彩な視点で把握・分析できます。

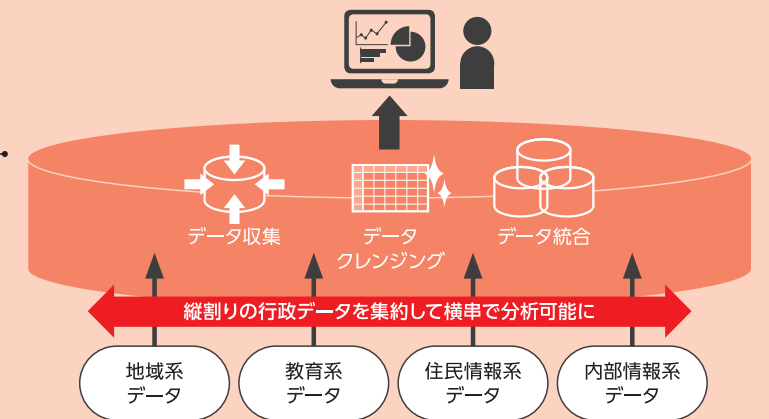
メリット3 職員の 業務効率化

必要なデータをすぐに取り出し活用できるようになります。

行政情報分析基盤 for セルフBIで より自由に、より手軽にできる理由とは？

散在するデータを自動で統合し すぐに分析開始可能

データ分析を行うには、システムからのデータ収集・整形・統合などの前処理に膨大な時間と手間が必要でした。「行政情報分析基盤 for セルフBI」ではあらゆるシステムからデータを統合できる環境を備え、データ分析における前処理を可能な限り自動化することで、ユーザ負荷を軽減し迅速に最新のデータで分析を行うことができるようになります。



自治体内のデータ

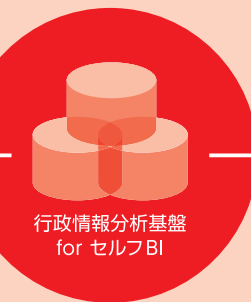
セルフBI基盤

業務現場

業務システムA (オンプレミス)

業務システムB (オンプレミス)

業務システムC (クラウド)



使い慣れたBIツールで 自由な分析が可能

ExcelやPowerBIなど、すでに導入済みの使い慣れたツールを利用して、さまざまな切り口でデータの可視化と分析ができます。自治体内のデータのほか、外部のクラウド基盤も含めたさまざまなデータを統合し、参照することで、より自由度の高い高度なデータ活用を促進します。

戦略的自治体経営に向けたデータ活用を実現

行政情報分析基盤 for セルフBIなら

いつものツールで
高度なデータ分析が
簡単に！

Power BI



年代別年度別に
自然/社会異動を分析

Power BI



住民状態別に人口
状況を分析。エリア
別分析も

Excel



世帯パターン別の
動向を分析